

くろつち便り

今月の内容

日米軍事訓練反対(9/2)／金曜集会(10/4)
友の会GG大会(9/11)／支部飛地草払(9/6)
くろつちGG大会(10/5)／野草折々-29-
共助会ボ-リーグ(10/25)／黒土会旅行(11/12)
忘年会(12/1)／(ほっとする話「初彼岸」)



↑会報QRコード

日米軍事訓練は中止せよ!

9月2日
11時、KC-130空中給油機訓練について九州防衛局から局長が来て鹿屋市に説明があるという。それは座視できない、反対の声は上げないといけな、という声が強、急ではあったが10時半ごろ、10名ほどの有志が市役所前に集まった。



敷地外でシュプレヒコール

市の方から、敷地内での幟やプラカードを拒まれたので、道路向かいに幟を立てたり、プラカードを目立たないところに置いたりして、局長を待った。

ところが敵も然る者。裏からこそこそと庁舎に入ったようだ。いつの間にか出迎えの職員の姿も消え、局長の姿を見ることもなく、11時を過ぎていた。

何もしないではいられない。庁舎駐車場入り口付近で少しでも反対の意思を伝えようと、

松下さんがマイクをとって。それに合わせてシュプレヒコール。「日米軍事訓練は中止せよ!」「一般市民の我々にも、きちんと説明せよ!」

.....!

庁舎5階の局長に声が届くように声を張り上げた。報道でもあった通り訓練の日程が発表された。

9日、10日(何れも中止)

17日、10時ごろ野里に行くと、多くの報道関係の人たちも来ていた。

米軍機は一向に姿を現

す気配がなく、このまま来なければいいなと思っていたが、11時40分を過ぎた頃、不意に西の方から爆音が一次の瞬間、後方、木の陰から巨きな機体が現れた。しばらく地上に留まった後、12時前にいずこかへ飛び去っていった。

立元さんがTVインタビューで答えておられたように、「1機であってもやはり戦争目的、身近なところに敵国があるということで訓練するので戦争につながる」という危険をはらんでいるのは確かである。

18日、午後8~9時の夜間訓練の予定が、これまた中止に...



1機であってもやはり戦争目的



雨の中で飛地の草払い



7月27日に支部の大掃除がありました。その時は支部から50mほど北の飛地(駐車場)までは手が回りませんでした。

お隣に住まわれている方が、

「以前は主人が手入れしていたのですが、その主人も亡くなって・・・」

「今は中央部は刈るけど、周りは刈ってくれなくて・・・」

「子ども達の通学路だけど、よく蛇が出てきて・・・」

などと話されました。当然のことながら、迷惑されておられるようでした。

9月6日に草払いをすることに決めたけど、当日はあいにくの雨。多分、できないだろうな、だけど次はいつするか打ち合わせが必要だと思って現地に行きましたら、真島さんや竹下さんらもう来ていました。何でも、この日は都合が悪いという、松尾さんらは前日に作業をされたらしい。後、野間さんも加わり作業は1時間程で終了。茅が生い茂っているとゴミを捨てやすいのか、作業後には数本のペットボトルや空き缶が散乱していました。(文責 樋園)

↑ほぼ草払いが済んだ飛地



猛暑に負けずプレー 労金友の会GG大会

文責：内俊朗

9月11日に実施され、140名近い参加がありました。

ホールインワンが多く何度も歓声が上がりました。くろつち会関係は、山口正則さんご家族3名、大窪一視さんご夫妻など14名の参加があり、山口伸



也さん(37打)、野下八千代さん(38打)が入賞されました。

(15~20位の入賞でした。)入賞は20位までで、レベルは40打以内。

1位は一般参加の郷満さん(29打)、最高齢参加者は、県職OBの小浜さん(90ぐらい)。

(質問)他単産OBから「黒土会」とは、どんな意味か?

皆さん、どう説明すれば良いのでしょうか。

何とか、うまく転がれよう~

(右→) おやっ? 前書記さん?



当 面 の 日 程

10/4日 金曜集会

月1回なのに、このところよく雨にたたられます

10/5日 くろつちGG大会

8:00受付 8:30開会
申込は矢野努さんへ

10/25日 ボーリング大会

主催：共助会
(共助会、GG大会は2/9日)

11/1~5日 作品展

近日中に、出品目録完成

11/12日 くろつち会旅行

西米良民俗資料館へ日帰り

経費8,600円
申込は野間典文さんへ
〆切 10/25日

12/1日(日)学習会・忘年会

戦争体験を聞く会を予定
講師はくろつち会員

ほっとする話 初彼岸 (散髪と煙草と初彼岸) 樋園哲思

もう30年以上、いや40年ぐらいになるだろうか、床屋に行ったことがない。散髪は家で、自分の手でやっているが、散髪後、よく妻に頭の後方——側頭部や後頭部の辺りを指さされ、「ほら、ここに穴があいている」なんて言われることが多々ある。まあ、このまま出かけてもじろじろ見る人はいないだろうと高をくくって、そのまま済みます。実際、2・3日も経てば、穴は目立たなくなる。(願わく

ば、散髪直後の僕、とりわけ頭をじろじろ見ないでほしい。)

無論、穴の話は他人にはしないが、'自分で散髪'の話は時たますることがあって、聞いた知人も感心するのだが、

「いやあ、床屋に行かないのは煙草代を稼ぐためですよ。」なんて大洞ふいていた。実際は、床屋というのは長く待たされるというイメージがあり、行くのが面倒なだけなんだが。(予約制がなかった時代の名残り。)

その煙草、4年前にすっぱり止めた。要介護5の母が鹿屋に来たからだった。(その辺りの事情は、2015年6月号「いつまで

続くか禁煙」に書いた。)

散髪後、母には煙草代を稼ぐためとは言えないので、「散髪代を浮かして、金を貯めて海外旅行に行こうか。」なんて嘯いたりして、すると母も笑っていた。その母が亡くなった今でも禁煙は続いている。

勿論、'自分で散髪'も続けているが、床屋に行くのが面倒だからと言うのもしゃくだから、他人には「焼酎代を稼ぐため」と嘯こうかな。

20日から7日間、お彼岸だ。母にとっては、初彼岸(四十九日後のはじめての彼岸)だ。散髪してから、墓参に行こう。



野草折々-29-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ。今回は、

ホタルブクロ (キキョウ科)

鹿児島県の自生地は甌島だけ。本土で見かける花は紅紫色だが、甌島で見られるものは、ほとんど白色である。

(写真は2014年10月27日 下甌島)